

注意

前年度の入試情報となります。
新しい情報は随時公開いたします。

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
法学部



2024

Faculty of

Law



From the Citizens' Perspective

「市民に寄り添う人」へ

法学は、人と向き合う学問としては、医学や神学などと並んでもっとも古い専門分野と言える学問です。龍谷大学の法学部は、特に広く社会的な課題に取り組むことをひとつの特徴としています。そのための教養や実践力を身につけるために座学だけでなくフィールドワークなどをおして市民視点からの学びに注力しています。



中央

071-318

鶴橋小市場
花かつお削りぶし
かつおの三光

鶴橋小
お惣菜各種
宇都宮商店

鶴橋小市場
お惣菜各種
オレラテマ

倉本精肉店
倉本食肉店

裁判所書記官
弁護士
弁理士
国家公務員
地方公務員

家庭裁判所調査官
学部共通コース
司法コース
企業での法務部
現代国家と法コース
パラリーガル

検察事務官
国際政治と法コース
志望にあわせてコース選択
現代国家と法コース
保護観察官

裁判所事務官
犯罪・刑罰と法コース
市民生活と法コース
検察官

裁判官
行政書士
法務教官
刑務官
社会保険労務士
司法書士



学生の取り組み紹介

Understanding SDGs through Traditional Crafts

京都深草の伝統工芸品を通じて
SDGs への理解を深める

法学部を盛り上げたいと考える学生有志が集う、企画・広報団体「LeD's(レッズ)」。

学生自らが企画・立案したイベントの運営をとおして、法学部の学びの魅力を学内外へ発信しています。

法学部の魅力発信と 身近な社会問題の啓発に努める

私たちLeD's(レッズ)は、法学部の魅力を学内外へ発信し、多くの方に認知してもらえるよう学生自身が企画・立案したイベントなどを開催しています。近年注目を集めているSDGs(持続可能な開発目標)の啓発や、若者の投票率低下など、身近な社会問題にも積極的に取り組んでいます。私たちが今回企画したのは、SDGsの啓発活動でした。2015年の国連採択以降、その名前は周知されつつあるものの、SDGsの内容や意義まで深く理解している人は決して多くありません。そんなSDGsについて地域の小学生にも知ってほしい、楽しみながら理解を深めてほしいと思ったのが、深草の伝統工芸品である「竹うちわづくり」イベントを開催するきっかけでした。

伝統工芸品づくりを通じて SDGsの意義を伝えたい

SDGsに掲げられている17の目標のうち今回テーマに取り上げたのは、「つくる責任・つかう責任」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」の3つでした。SDGsと聞くと難しいように思われがちですが、実際はとても身近な問題です。ただ、座学で学ぶとなると、小学生は退屈に感じてしまうかもしれません。そこで私たちは、竹うちわづくりのほかにもSDGsに関する簡単なクイズを用意するなど、楽しく学ぶことに重点を置き、工夫を重ねました。実際に竹の香りや手触りを体感しながら製作するなかで、自作のうちわへの愛着が生まれたのか、大切に使うという姿勢が見受けられました。プラスチック製品を使うのが当たり前

になっている小学生が、プラスチックごみをはじめとする環境問題に目を向け、自分たちに何ができるかを考えるきっかけになってくれれば、嬉しい限りです。これからも身近な社会課題を広く発信し、周囲の方々の巻き込んだイベントを開催できればと思っています。

企画に携わって体感した 準備の大変さと大切さ

このイベントを開催するにあたり、私たちは計画の練り直しからスタートしなければなりません。というのも、2020年に蔓延した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2年間ずっと停滞していたイベントだったからです。企画の対象者が小学生ということもあり、感染対策の徹底や保護者へ情報を周知する手段など、コロナ前までは考えもしなかった課題が山積みで、試行錯誤を繰り返しました。イベントの周知をお願いする小学校にも何度も足を運び、校長先生や教頭先生と協議を重ねたり、申込書の配布をお願いしたりと、準備だけで半年もの時間を要しました。しかし、この一連の大変さを味わってなければ、きっと主催者側の苦労を知ることではできなかったでしょう。一つのイベントが開催されるまでには、多くの時間と周到な準備が必要なのだ、身をもって知る貴重な経験でした。

仲間と困難を乗り越えた経験は 将来への大きな自信となって

小学生向けのイベントながら、企画者である私たちも、SDGsへの理解がより深まりました。同時に、自然資源の活用法や伝統工芸品の後継者不足など、新たな課題にも気づ

けました。また、今回の体験をとおして、仲間と協働することの大切さも改めて学びました。特に準備期間中は多くの課題に直面して、行き詰まるたびにみんなで相談し、知恵を出し合ったものです。ともに悩み考える仲間がいなければ、途中で諦めていたかも知れません。幹部数名を中心に、同じ目標へ向けて力を合わせたからこそ、実現できたイベントなのだ、仲間や支え協力してくださった方々への感謝の気持ちでいっぱい。この経験はきっと、今後の学生生活、ひいては、将来においても大きな自信になると確信しています。



Ryosuke Ueda

植田 涼介さん

3年生

(大阪府立佐野高等学校 出身)



Tomo Nakahira

中平 朋さん

3年生

(鹿児島県立鹿屋高等学校 出身)



Momoka Kawakami

川上 桃佳さん

2年生

(伊丹市立伊丹高等学校 出身)



「香り」で地域おこしを行う 上市町の取り組みをリサーチ

法政アクティブリサーチは、自分たちでテーマを設定し、行政機関や自治体、企業にヒアリング調査を行い、成果を学内外に発信する学生主体の取り組みです。私たちのグループは、「かおり・においと環境」という視点からの「まちづくり」に着目し、調査研究を行うことにしました。まちづくりというと観光名所や特産品など視覚・味覚に訴えるアプローチが一般的ですが、嗅覚に働きかける地域活性化も可能はずです。そこで、間伐樹木を活用した精油などによる商品開発や体験プログラムを通じて「香り文化」の推進に取り

組んでいる富山県中新川郡上市町を、ヒアリング先を選びました。

まちづくり当事者から話を聞き、 地域活性化のヒントを探る

上市町は、人口減少や少子高齢化、農林業の後継者不足、未整備森林の増加といった問題を抱えています。それらの解決策の一環として『「香り文化」推進プロジェクト』を実施し、住民や事業者の方々が連携してまちづくりをすすめています。今回その活動を調査することで、地域の特性や資源を活かした取り組みこそ、雇用の創出や地場産業の繁栄の鍵であるとわかりました。特に、ヒアリング調査から学

んだことは大きいと感じます。社会課題に向き合っている方のお話を聞き、座学だけでは知ることのできない貴重な知見を得られましたし、アポイントやメールのやり取り、現地での振る舞いなどの社会人として必要なマナーも身につきました。また、チーム内で自分が何をすべきか見定める判断力も養われました。一方、こちらの事前準備が不十分で聞きたいことを質問しきれなかったという後悔もあります。ヒアリング調査を充実させるには、「なぜそれを調べるのか」「なぜそれを尋ねるのか」を考え抜いておかねばならないと痛感しました。そういった反省点も活かしながら、今後も引き続き地域課題に取り組んでいきたいです。

法政アクティブリサーチ

Research Local Issues and Seek Solutions

「香り」の地域振興を調査し、 社会課題の解決をめざす

法政アクティブリサーチは、社会課題を解決する取り組みに、学生が主体的に参加する授業です。学外の各種団体や自治体、法人などにヒアリング調査を行い、自分たちで解決策を模索、提案していきます。今回は、「香り」とまちづくりについて調査を実施しました。

Keita Suzuki

鈴木 啓太さん

2年生
(奈良県立奈良北高等学校 出身)



地域の現状を「知ること」が 社会問題を解決する第一歩

日本の各地域には、認識はされているものの危機感が共有されていない問題や、まだ認知すらされていない問題など、社会に不利益をもたらすさまざまな問題が数多く存在します。そういった事柄を課題としてとらえ解決につなげるには、「知ること」から始める必要があります。私たちは法政アクティブリサーチを通じ、上市町が直面している困難を知りました。現地まで足を運び、企業や自治体の方々にお話をうかがい、地域の取り組みについて理解を深めることで、課題解決に向けた考え方がおのずと身についたように感じます。

ヒアリング調査で得られた知見を 共有し、社会貢献に活かしたい

上市町のまちづくりの必要性や「香り」という資源活用の背景を調査することで地域活性化への理解が深まり、さまざまな視点から物事をとらえる力が身につきました。法政アクティブリサーチでは学生自ら現地を訪れてお話をうかがいますが、事前に綿密な下調べをする必要があります。大変な作業ですが、苦勞して得た知見は、今後の人生でも必ず役立つと思います。ヒアリングで役場の方々の思いなどを知り、上市町により親近感が湧くとともに、地域の問題を自分事として考えるようになりました。人口減少や少子高齢化による地域衰退



は、全国共通の課題です。私たちがヒアリング調査を行い発表することで、少しでも多くの人や地域に上市町の取り組みが伝わり、社会課題を解決する一助になれば幸いです。



Manami Ono

小野 愛実さん

2年生

(大阪府立山田高等学校 出身)



Nozomi Ogi

大木のぞみさん

2年生

(奈良県立橿原高等学校 出身)



Hot Topics

法学部の取り組み

1 1年生の学びを支える クラスサポーター制度

主に2年生と3年生がクラスサポーターになって、1年生前期の「基礎演習」と後期の「法政入門演習」で1年生や教員をサポートしたり、1年生と教員との橋渡しをしたりしながら円滑な授業運営をめざします。1年生がどんな問題を抱えているか、どんな情報を必要としているかを相手の立場で考えフィードバックするので、サポートする側の私もプレゼン力やコミュニケーション力が鍛えられていくのを実感できました。1年生のサポートにとどまらず、自分自身の成長につながるクラスサポーター制度は法学部の大きな特徴の1つだと思います。

志水 左近さん

3年生（京都府立東宇治高等学校 出身）



2 学びの成果を地域に還元 学生法律相談部

市民や学生から受ける法的な相談に対し、大学で学んだ法学知識をもとにアドバイスを行います。普通の授業でインプットした知識を実務としてアウトプットし、相談者の問題解決をお手伝いするのが目的です。ヒアリングや助言を通じて、法的思考力や課題解決力が向上しました。なかでも相手の話を引き出す話し方や、傾聴する姿勢、人間力が特に培われ、これから社会にでるうえで求められる力が身についたと感じています。今後もこの活動をととして自分自身の能力を高め、社会でも活用していきたいです。

衣笠 翔也さん

2年生（大阪府立大塚高等学校 出身）

3 卒業生による進路選択のサポート 法学部メンターシッププログラム

このプログラムでは、本学法学部卒業生を中心とした社会人がメンター（相談相手、助言者）となり、社会人として培ってきたキャリアや学生時代の経験を活かしながら、在学生に対して、進路選択やキャリア形成に関する助言を行います。

多様な情報があふれている時代ですが、メンターから直接助言を受けることによって、進路選択やキャリア形成の一助、卒業後の姿を考えるきっかけとなることを目的としています。



4-Year Studies



4年間で何を学ぶ？

法律や政治を基礎から発展まで段階的に学修することで、無理なく知識を積み上げる

		1年次		2年次		3年次		4年次		
		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
4年間の流れ		大学での学び方を修得する		段階的に学修を深めて関心があるコースを選択		専門性の高い科目を学びリーガルマインドを育てる		研究テーマを追究し、卒業研究にまとめあげる		
	学びの全体像	専攻基礎科目				専攻科目				
		基礎演習 「大学入門科目」であり、大学での学び方を修得します。	法政入門演習 法学・政治学の学修に必要な読解力を養成します。	法政ブリッジセミナー 卒業研究へとつながる文章作成能力を磨き、専門的な学びに向けた橋渡しをします。	演習Ⅰ 専門教育ゼミナールとして、各自が希望するゼミを選択。多様なゼミが開講されます。	演習Ⅱ・卒業研究 「演習Ⅰ」での学修をさらに深める専門教育ゼミナールが「演習Ⅱ」です。その集大成として卒業研究を作成します。				
クラスサポーター制度 法学・政治学入門科目 法学・政治学の基礎を学ぶための基本科目を履修します。 ●法と裁判 ●刑事法入門 ●憲法Ⅰ・Ⅱ ●日本法制史A ●民法Ⅰ-A・B ●現代世界の政治 など	法政アクティブリサーチ これまでに取り組んだ内容 <ul style="list-style-type: none"> ●消費者保護のための行政の取り組みと企業の対応 ●最前線の持続可能社会の諸政策を考える ●社会的問題に関する「市民」の視点と理念論 ●歴史的観光地の「光」と「影」 				法律事務実務・法律実務論 法律事務所や司法書士事務所でインターンシップを行い、活きた法律を学びます。					
コースの学び			進路にあわせてコースを選択		司法コース 六法科目を少人数で学び、教員と学生によるインタラクティブな授業を展開します。				現代国家と法コース 公法科目（憲法、行政法など）を中心に、関連科目として政治学や日本政治を学びます。	
						市民生活と法コース 民事法科目（民法、民事訴訟法など）や、商事法科目（商法、会社法など）を中心に学びます。		犯罪・刑罰と法コース 刑事法科目（刑法、刑事訴訟法、刑事政策、犯罪学など）を中心に、関連科目として矯正・保護課程科目を学びます。		
						国際政治と法コース 国際法や国際政治関係、地域研究の観点から、国際社会に関するさまざまな問題を学びます。		学部共通コース 国際関係コース、英語コミュニケーションコース スポーツサイエンスコース、環境サイエンスコース		

[取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）
- 本願寺派教師資格（受験資格）

[めざす職業・進路]

- 公務員（国家・地方）
- 司法書士、行政書士、刑務官、警察官、法務教官、保護観察官
- 裁判所事務官、検察事務官、家裁調査官

- 教員（中学校、高等学校）
- 法科大学院（弁護士・検察官・裁判官）
- 企業（法務関係など）

Seminars

ゼミ紹介

浜井 浩一ゼミ



実例に基づく犯罪と社会復帰の現状を
多角的な観点から考察する

京田 愛花さん
4年生（岡山県 岡山学芸館高等学校 出身）

私は、犯罪学や犯罪心理学を中心に研究しています。人はなぜ犯罪を犯し、どのように更生するのか。社会復帰に至るまでの心理に関心を抱いたからです。ゼミではグループに分かれ、犯罪白書をもとにテーマを設定し、現代の犯罪の特徴や処遇方法をレポートにまとめて発表します。定期的なメンバーの入れ替えにより幅広い分野に触れることで、自分の興味対象が絞られ卒業論文につながっていきます。そのような学びをとおして、私が卒業論文のテーマに選んだのは、少年犯罪です。更生や再教育などを目的とする少年法は、教育法・福祉法の役割も担っています。非行少年が罪を犯す理由や再犯を抑止する処遇など、少年犯罪に関する専門的な学びは、法務教官という夢をもつきっかけにもなりました。担当教員の専門的な指導のもとで今後は日本の刑罰に対する国際的な視点も養い、夢の実現をめざします。



データやエビデンスに基づいて
考察し徹底的に事実と向き合う

松下 明日香さん
4年生（大阪府 大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎 出身）

浜井ゼミでは、犯罪白書などを活用して犯罪が起こる割合や犯罪者への処遇方法を調査し、どうすれば犯罪が減るか、再犯を防ぐにはどんな政策が有効か、自分なりの結論を導き出していきます。研究をすすめるなかで、非行少年や犯罪の当事者に対して自分はいかに勝手なイメージをもっていたのかと驚き、少年法に対する考え方も覆されました。少年院と刑務所の違いや少年への処遇方法を科学的に検証するなかで、適用年齢の引き下げや厳罰化が必ずしも犯罪の減少に結びつくのではないとわかりました。そんなゼミでの学びから、18～19歳の少年への処遇が社会に与える影響に着目し、卒業論文は「少年法適用年齢引き下げは適切であったのか」をテーマに選びました。誰もが無意識にもつ誤ったイメージや決めつけを取り除き、事実ととことん向き合うことが犯罪や再犯の減少につながると考えます。

[ゼミで取り扱う学びのテーマ(例)]

[法律系]

- カーボンニュートラルの推進と温泉街の振興
- 南海トラフ地震を見据えた集団移転促進事業の活用について
—住民の津波事前対策の選択肢拡大を図る観点から—
- いじめ自殺事件の重大さを考える～加害者の責任・健全育成に着目して～
- 再犯防止に向けた就労支援のあり方
- 日本における市民の犯罪に対するパラダイム—犯罪の病因に対する観点から—
- 再審開始決定に対する検察官抗告の検討
- ヤングケアラーに対する日本の今後

法律や政治は、広く社会的な課題に関わっています。

ゼミでは、実社会の出来事や現象を独自の視点で考察し、実践力を育みます。



瀬畑 源ゼミ



沖縄の基地問題を巡る 全国紙と地方紙の違いを分析

椿本 知央さん
3年生(大阪府立住吉高等学校 出身)

近代日本の政治に強い関心があり、日本政治史が専門の瀬畑ゼミを選びました。特に印象深いのが、全国紙5紙と沖縄地方紙2紙における沖縄基地問題の取り扱い方をテーマにした、2年次後期の合同報告会です。各新聞の社説を一つずつ読みながら調査することで、全国紙と地方紙の違いだけでなく、5紙間・2紙間の論調や立場の差異も発見できました。膨大な量の情報を整理して分析する作業は大変でしたが、やり切ったときはとても達成感があり、貴重な経験を得られたと感じています。その後も沖縄について、歴史や観光産業も含めてみんなで考察をすすめています。少人数だからこそ時間をかけて輪読や報告、議論を行える密度の濃さや、瀬畑先生のサポートの細やかさも、本ゼミの特徴です。これまでの取り組みをとおして身についた幅広い知識や資料の選び方を、今後の卒業研究にも活かしていきます。



正解のない政治問題を探究し 自分なりの考えを構築したい

沖野 翔太さん
4年生(大阪府立布施高等学校 出身)

日本政治史を研究するゼミを選んだのは、与党と野党が対立する政治問題に強い関心をもっていたからです。コースは「現代国家の法」コースを選択し、ゼミでは、戦前・戦後の歴史問題や、沖縄の米軍基地問題から派生する日米安全保障条約、天皇制など幅広い領域を学んでいます。興味深いのは、諸問題に対する論点や主張が、人によって大きく異なる点です。特に天皇制への意見は、戦前から戦後、そして現代まで変化があり、時代を超えてさまざまな賛否が存在します。そこに焦点をあて、卒業論文では「天皇制の今後について」というテーマを掘り下げていきます。歴史を遡りながら賛否それぞれの主張を考察するなかで、どのような見解を得られるのか。絶対的な正解のない政治的なテーマをいかにとらえるのか。ゼミでの学びを活かした柔軟な視点に立ち、自分なりの考え方を構築したいと考えています。

- 憲法25条と貧困-生活保護制度の問題点に着目して-
- プライバシー権侵害の不法行為における違法性の判断枠組み
- 最判令和2年10月9日民集74巻7号1807頁判決を中心に-
- 嫡出推定制度の問題点-嫡出否認権を誰に認めるべきか-

[政治系]

- 日本で政権交代が起きないのはなぜか
- 東條英機の人物像-期待と憎しみを背負った努力家
- 宇宙の環境保全と国際協調-スペースデブリ問題を事例に-
- 日本におけるインターネット投票の有効性-投票権保障の観点から-

Life after Graduation



Graduate's Interview

京都府庁

総務部自治振興課 勤務

Kazuya Maeda

前田 和哉さん

法律学科 2021年卒業
(京都府立城陽高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

行政法を専攻テーマとするゼミに所属し、地方自治法や京都の景観政策について研究していました。法学部の広報活動にも力を注ぎ、オープンキャンパスでは学部紹介や模擬裁判を通じて高校生に法学部の魅力を伝えました。勉強だけでなくこうした課外活動が豊富であるなど、学生の意欲に応じてくれる制度や支援が充実しているのが法学部の魅力だと感じます。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

地方公共団体の事業の多くは法律や条例に基づいて施行されるので、大学での法学の知識が活かされていると感じます。市役所のインターンシップに参加した経験も、公人としての心構えを知るうえで貴重な機会でした。現在私は地方公共団体の歳入である交付税の算定・交付・検査を担当し、緊張感とやりがいをもって府内の税財政運営に携わっています。すべての府民が夢と希望をもって暮らせるよう、今後も府政のために尽力します。

My Background



大学1・2年生

フィールドワークをとおして、判例だけではわからない現場の状況を確認する大切さを学びました。



大学3年生

オープンキャンパスで実施する模擬裁判の企画長・司会進行役を担当。学部の魅力をアピールすべく、さまざまな工夫を凝らしました。



大学4年生

晴れて大学を卒業し、公務員試験も無事合格。喜びや苦労をともにした仲間とは、今でも連絡を取り合い、親交を深めています。



現在

京都全体を支える「縁の下の力もち」をめざし、府庁での実務経験を通じて、活躍の幅を広げていきたいです。



Graduate's Interview

高松地方裁判所

丸亀支部 勤務

Yusuke Kagawa

香川 雄祐さん

法律学科 2018年卒業
(香川県立坂出高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

大学時代は法科大学院への進学を視野に、法律に関する授業を幅広く受講しました。憲法ゼミを選択し、卒業論文では「信教の自由と政教分離の相克問題」について考察しました。また、実際に弁護士のもとで法曹実務を体験する実務科目も学修し、この経験をとおして、専門用語や自分の考えを相手にわかりやすく説明する重要性和難しさを実感しました。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

現在は裁判所内の「司法行政部門」で、会計事務や広報活動などを担当しています。手続きなどの複雑さから裁判所の利用に不安を感じる方が多いため、「より良い司法サービスを提供したい」と常々意識しています。その原点は、大学での学びや経験にあり、当時の経験は現在の仕事すべてに直結しています。司法に携わる一人として社会の動きに柔軟に対応し、すべての方が利用しやすい裁判所の実現に向けて今後も努力を重ねていきます。

My Background



大学1・2年生

1年生の授業支援を行うクラスサポーター活動に参加。新たな友人ができたり教員とも親睦を深められたり、とても充実していました。



大学3年生

「法律事務実務」の授業における模擬裁判の一幕。台本なしの一発勝負のため、チーム一丸となって尋問構成を連日考えていました。



大学4年生

目標に向けて仲間と切磋琢磨した日々はかけがえのない思い出です。卒業式にゼミの先生から卒業証書をいただいたことは、とても感慨深かったです。



現在

司法試験合格という、大学時代からの目標を達成できました。学びや経験のすべてを、これからも活かし続けたいと思います。

Careers



法学部の就職

法学部で学んだリーガルマインドを活かし、 公務員をはじめ、さまざまな分野で活躍

法学部生の進路というと、司法関係の仕事がイメージされがちですが、法学部の卒業生は、さまざまな分野に就職し活躍しています。それは、法学・政治学の授業をとおして養われるリーガルマインドは、公務員はもちろん金融業や不動産業、サービス業や卸売・小売業など、多様な業種で幅広く求められることの結果です。とりわけ、本学法学部生は、毎年5、6人に1人という高い割合で、公務員に就職しています。

公務員
20.3%
(2021年度卒業生実績)

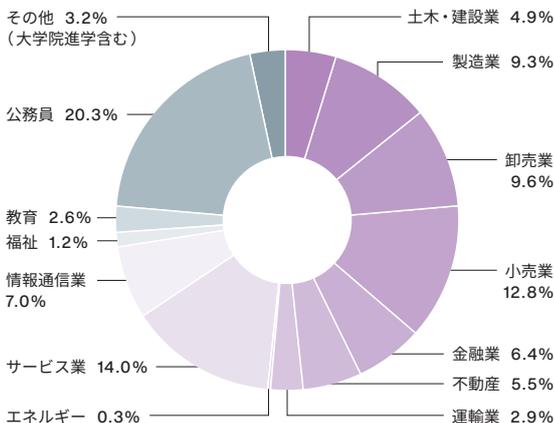
「法学部＝法曹」ではない 「リーガルマインド」は 身近な課題の解決に役立つ

法学というと、弁護士や裁判官、検事など、一般市民とは別の世界のように思うかもしれませんが。しかし法学に関係することは、私たちのすぐ身近にあり、日常生活に起きるあらゆることが法学に関係しています。法学部で培われる、現代社会の諸問題を鋭敏な人権感覚をもって批判的・論理的に分析する能力(リーガルマインド)は、社会に出てから直面するさまざまな課題の解決に役立ちます。

英会話教室の契約	クレジットカード	少年犯罪
自動車事故	法律	冤罪
アルバイト代不払い	米軍基地問題	自衛隊の海外派遣

就職状況 (2021年度卒業生)

法律学科



[主な就職先]

- NEC ネットズエスアイ株式会社
- ニッタン株式会社
- アイリスオーヤマ株式会社
- 株式会社キーエンス
- スズキ株式会社
- 株式会社淀川製鋼所
- リンナイ株式会社
- JA全農たまご株式会社
- 島津メディカルシステムズ株式会社
- ダイワボウ情報システム株式会社
- 株式会社モリタ
- 株式会社あさひ(サイクルベースあさひ)
- コーナン商事株式会社
- 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- 株式会社ヤマダホールディングス
- 株式会社京都銀行
- 京都信用金庫
- 京都中央信用金庫
- 株式会社滋賀銀行
- ほけんの窓口グループ株式会社
- 明治田舎生命保険相互会社
- 関西電力株式会社
- 富士ソフト株式会社
- 株式会社マイナビ
- 京都府教育委員会
- 厚生労働省(国家公務員一般職)
- 法務省(法務省専門職員、刑務官)
- 国税庁(国税専門官)
- 滋賀県庁
- 京都府庁
- 奈良県庁
- 大津市役所
- 京都市役所
- 大阪市役所
- 滋賀県警察
- 京都府警察
- 大阪府警察
- 兵庫県警察 など

※主な就職先は業種順に記載



法務省 内定

入学当初から公務員をめざし、計画的に学修をすすめてきました。ゼミでは行政法を専攻し法律や行政の役割について確かな知識を身につけながら、法律系資格の取得に向けた勉強も並行していました。学びのなかで身につけた豊富な法律知識は自信にもつながり、公務員試験でも落ち着いて自分の実力を発揮できました。大学で得た学びは、人権被害を受けた相談者の人生を守るべく活かしていきたいと考えています。実務経験を積みながらさらに資格取得にも励み、より知見を広げていきたいです。

園原 聖さん

4年生（京都府立鳥羽高等学校 出身）

京都市役所 内定

本学主催の気候変動開発会議への参加を通じて、社会課題解決に取り組む意義を見出したのをきっかけに学生団体を立ち上げました。多くの人と関わり内省を深めた結果、就職活動の軸が「学生の支援ができる仕事」と明確になりました。この経験を踏まえ、学生の活動支援に力を入れている京都市の職員として学生の活動や取り組みを後押ししたいと考えています。大学や組織の枠を超えて地域や民間企業とも横断的に協働できる基盤づくりに寄与し、新たな価値の創出をめざします。

松田 あゆみさん

4年生（滋賀県立甲西高等学校 出身）



LINE 株式会社 内定

授業では幅広く日本の法律について学び、ゼミでは国際政治学を専攻しました。海外各国を参考としながら日本政治の発展に必要な施策を模索し、研究を通じて国際感覚と多角的に物事をみる視野が身につきました。法学部の学びでは、筋道立ててわかりやすく自分の意見を伝える力も磨かれ、エントリーシートの記入や面接においても大いに役立ったと感じています。一つの見方にとらわれず柔軟な思考で事業に貢献し成長を重ね、幅広く活躍する人材になりたいです。

中辻 綾さん

4年生（大阪府立登美丘高等学校 出身）



株式会社一条工務店 内定

講義では刑法や犯罪学に関する科目を中心に勉強し、関心の強い分野への学びを深めていきました。ゼミ活動において多くの発表やゼミ長を経験するなかで、人前でも臆することなく自分の意見を論理的に伝える力が培われました。就職活動でもその力を十分発揮できるよう大学内のキャリアセンターを最大限に活用して対策を行ったおかげで、多くの企業の面接を通過できました。大学で積み重ねた学びを活かし、お客さまに信頼してもらえるビジネスパーソンとなるべく、さらなる飛躍をめざします。

土肥 裕矢さん

4年生（兵庫県立淡路三原高等学校 出身）



龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 法学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。

深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町 67
Tel 075-645-7896
hogaku@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫
から好アクセス

JR大阪駅 → 約42分
京阪京橋駅 → 約41分
近鉄奈良駅 → 約43分
JR三ノ宮駅 → 約63分



<https://www.law.ryukoku.ac.jp>